

一般質問通告書要旨

清新クラブ 15番議員 高阪康彦

本町地区をどのように考えているか。

本町、読んで字のごとく本^{もと}の町であります。本町地区は蟹江町の中心地として、歴史的にも早くから発展をしてきた地域であり、商店街を核とした、人口密度の高い地域であります。しかし、これも歴史の必然と云いますか、早くから発展をした所は、衰退をしていきます。その要因を考えてみますと、将来を考え、きちんとした町造りを考える間もなく、その地域が発達をしてしまう事であります。後年、道路拡張など、町作りの施策を実行しようとした時には、大変困難な事態になっており、それが実行出来ません。又、人口密度が高いということは、大きな空き地が少ないと云うことにもなり、インフラ整備が出来にくくなっています。インフラ整備が出来ないことは、時の流れについていけないと云うことにもなり、衰退をしていく事は、歴史が証明をしています。行政的には、町が将来のビジョンを持たず、開発を許して来たことにも、原因があると思います。一つの例として、本町地区の最近の大雨のたびの浸水被害は、ため池の役割をしていた田畑を埋めて、住宅、店舗などに開発をして来たことにも原因があります。開発が悪いと云うものではありません。本町地域が将来、都市化をしていくと云う町造りのビジョンがなく、そのための対策が後手後手にまわり、根本的な解決が出来なかった。と云う事であります。そして、この問題が何十年も続いている現状は行政の怠慢ではないでしょうか。

インフラストラクチャー 生産や生活の基盤を形成する構造物。ダム・道路・港湾・発電所・通信施設・などの産業基盤、および、学校、病院、公園、などの社会福祉・環境施設

質問に入ります。

一つめは本町地区の公共用地取得の問題であります。

この事は加藤楽器跡地の問題で周辺住民から、請願が出され、その事に答え、議会の決議として「本町地区に早期に公共用地を求める決議」が出されたことは、周知の事実であります。このことを前佐藤町長にも質問をしましたが、この決議は合併をしたら、効力はないとお聞きをしました。しかし現実には、合併が破綻をしまして、現在、蟹江町は単独で行政を行っている訳であります。そこで、同じことを横江町長にお尋ねを致しますが、当時、町長も議員であり、この事の経緯はよくご存じのことと思います。現在、町長となられまして、議会の決議の重さ、その効力を、どのように考えておられるのか、お伺いをしたいと思ひますし、この早期と云う時期はどれぐらいなのかをお示し戴きたいことと、町長になられてから、この問題でご尽力されたことがあればお伺いをしたいと思ひます。又、実際に町が土地を求める場合は、その購入の判断は、町長が判断をされるのか、合議制で決められるのか。購入土地の買い入れ単価、等はどのようにして決められるのか。又、借入金等の限度、事前の議会の承認等のルールはどうなっているのか、なるべく簡単に理解出来るようお教えを願ひます。

二つ目は、学童保育所についてお伺いします。

本町の学童保育所の建設計画については、17年9月議会での私の質問に、蟹江本町オの割地内に児童館と学童保育所を併設した施設の建設計画を検討していたが、土地の形状が悪く、面積も狭いので、現在条件の良い土地を探している。との答弁を戴きました。その後はどうなっているのかをお尋ねを致します。

現在、学童保育は蟹江児童館で行われています。ここも、相当の年数が経っており、立て替えの必要があると思います。ですから、先のような答弁であったと思われませんが、すぐ隣の給食センターが移転をします。その跡地利用は考えられないのか。併せて、答弁をお願いします。

三つ目は、三世代ふれあいプラザであります。

現在は舟入地区と学戸地区にあります。この地域には児童館がないと云うことで、併設の形で建設されたと聞いています。それはさておき、本々、この発想は各学区単位で建設される計画であったと聞いています。その建物の規模などから、仕方のない事かも知れませんが、問題はその利用が狭い地域に限られていると云うことです。本町地域の人が舟入、学戸のふれあいプラザを利用すれば問題にはなりません、実体はそうではありません。本町の住民もふれあいたいのです。現在は、行財政改革の時代、いわゆる箱物行政はもう出来ない。そんな経済的余力もないとすれば、利用者の限定される施設に税金を投入し続けるのはいかがなものか。町として、学区単位にふれあいプラザを建設出来ないとなれば、その代償を求めるのが、住民感情であります。ふれあいプラザのない地域の対応を、どのように考えておられるのかお尋ねをします。

四つ目は本町地域の大雨浸水対策であります。

この問題に関しては、先の9月議会で山田邦夫議員、伊藤正昇議員議員からも質問がありました。私もこの大雨の当日、町内を歩いて廻った時のことですが、「大変ですね」と声をかけて、浸水された住民の方と少し立ち話をしました。その方が云われた事は「もう、慣れっこになっているわ」と自嘲気味に云われ「低い所におる者は、我慢しよと云う事だわね」とも云われました。私は、どう答えていいのか返答に困りました。冒頭にも申し上げましたが、数十年もの間、根本的な対策をしなかったと云うことは行政の怠慢だと思いますし、一人一人ではどうしても出来ないインフラ整備等は、行政が行うのではありませんか。又、この件に関しては本町町内会連合会からも浸水対策の要望書が出ていると聞いています。改めまして、町はこの問題に関し根本的な対策としてどういった事を考えられているのか。お尋ねをします。

又、その時、別の住民の人から「今回は水の引くのがちょっと遅いわね。何時もはもうちょっと早く引くけどね」とも聞きました。後日、排水ポンプがすぐに掛からなかったと云う話を聞きました。許容限度を超えた大雨で一旦水に漬くことは仕方ないとあきらめても、一刻も早く水を引かせる努力は、これも行政の責任であります。ところが、この事は、移り変わりの激しい現代は三ヶ月も経ちますとすぐ忘れられてしまいます。「喉元すぎれば熱さ忘れる」では困ります。あの大雨以来、この反省を含めて、町として、すぐ実行出来ること、例えば災害時のマニュアルの徹底など、二度と排水が遅れないような、被害に遭った住民に安心感を与えるような事を、実行された施策があればお尋ねをします。

以上、四項目をお尋ねを致します。

質問要旨

- 1 . 本町地区の早期に公共用地を求める決議の有効性の考え。早期の時期この問題に関して、横江町長就任以来、実際に考慮した案件はあったか。現実に町が土地を購入するときのプロセスと町長の権限

町長

- 2 . 本町学童保育所（蟹江児童館を含めて）の今後の計画

担当
町長

- 3 . 本町地区ばかりでなく、三世代ふれあいプラザのない地区をどのように考えているか。

町長

施設利用者が地域に限定されているのに、税金を投入し続けている。他地域にもそれに合う方策を考えよ。

担当

- 4 . 本町地区の大雨の根本的対策を、どのように考え、どう云った施策を行うのか。

町長

対処療法として、あれ以来、すぐ出来る排水対策として何を実行したか。

担当